

ダンボールコンポスト 成功のポイント

☆置き場所は雨のかからないところに

☆風通しのよいところに

台所の生ごみなら何でも入れてかまいません。



1. 貝殻以外の生ごみは全てOK。

* 魚の骨は、大切な「リン」分の補給になります。

鶏・豚・牛等の骨は魚より分解に時間がかかりますが、これも捨てずに入れてください。

* 腐ったもの、かびが生えたものでもOK。茶がらなど水切り不要です。

* 塩分の強いものは水だしてから投入してください。

よくかき混ぜてから、生ごみ投入

1. 毎回生ごみの投入前に、シャベルでよくかき混ぜ、空気を入れます。

その後ダンボールの中央に穴を掘り、その中に生ごみを埋めましょう。

箱のすぐ内側は乾燥気味にしておけば、虫の発生の予防になります。

2. 生ごみの目安は300g～700gです。

少ない場合は2日分まとめてもOK、生ごみの多い家庭は2箱用意して交互に入れてください。

3. 生ごみは特別水切りする必要はありません。

分解と水分と温度について

1. 分解が始まるまで、夏は1週間、冬は2週間くらいかかります。

白カビがでたら、分解の始まったのしるし。ここからが楽しいです。

2. 分解すると湯気がでるくらい温度は上がります。しかしそんなに温度は気にせず

全体のかさが増えないことを目安に、生ごみを入れて かきまぜてください。

3. 握って固まる程度の適度な水分が必要です。

乾燥気味のときは、米のとぎ汁など水分を補給します。

4. 分解が進まないとき、廃食油は効果絶大。

糖分、炭水化物、脂っこいもの、魚のあらなど高カロリーのものは分解を促進させます。

ごみの量が多い時、寒い時期などは、きざんだ方が分解が速いです。

虫の発生について

1. 虫には予防が1番。布カバーを下まできっちりして、裏表を逆にしないでください。

布カバーに産みつけられたミズアブなどの卵はガムテープなどで取りのぞきます。

2. 虫やダニが発生しても大丈夫。堆肥温度が高くなると死滅し、タンパク源、窒素分になります。

「切りかえし」

よくかき混ぜているつもりでも、底の方にはまだ新しい基材が残っています。

大きなシートか新聞紙、又はビニール袋の中に、
ダンボールの中味を全てあけ、もみほぐしてから、
また箱にもどしてみると生き返りますよ！

この作業を「切りかえし」と言います。

切り返しを期間中2回ぐらいすると均一した良い堆肥になります。



生ごみ投入を終了するタイミング

約3か月、投入生ごみの総量50kg位までOKです。その目安は

高カロリーーの生ごみを入れても、分解が進まず、べたべたする感じで、腐敗臭がする・・・やめ時です。
尚、毎日の生ごみ投入量が少ない方は、3か月で終了するのはまだ早いと思われます。

よくかき混ぜて、さらさらした感じがあれば、まだ生ごみを投入できます。

肥料に使う時期から逆算して生ごみ投入をやめることもできますが、

少なくとも30kgくらいは入れましょう。生ごみ量があまり少ないと肥料成分が少なくなります。

生ごみ投入をかなりやめていた場合でも、いつでも再開OKです。

終了後の熟成のしかた

1. 生ごみの投入をやめ、布カバーをして、1か月ねかせます。

この間1週間に1度くらい水(1000ml位)を補給しながらかき混ぜ、
最後に入れた生ごみまで分解させ完熟堆肥にします。

2. 使う時は、堆肥1:土3~5の割合で混ぜ、プランターや花壇や畑に使えます。

未分解の骨や種、卵の殻などがあっても大丈夫。土中でゆっくり分解されて栄養になります。

3. 保管する時は、ビニール袋に入れておくと、いつでも使い便利です。追肥としても使えます。